

【事例2】言語障害通級指導学級

学校・学年	小学校・第2学年
障害の種類・程度や状態等	言語障害。話す、聞く等の言語発達の遅れ。自分の言いたいことをうまく表現できず、自信がない。

学校生活支援シート（個別の教育支援計画）

1 学校生活への期待や成長への願い(こんな学校生活がしたい、こんな子供(大人)に育ってほしい、など)

本人から	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に伝えたいことをうまく伝えられるようになりたい。 ・国語が得意になりたい。
保護者から	<ul style="list-style-type: none"> ・自信をもって意見を言える子になってほしい。

2 現在のお子さんの様子(得意なこと・頑張っていること、不安なことなど)

<ul style="list-style-type: none"> ・虫などの生き物が好きで、友達と虫取りをしたりしている。 ・体を動かすことは好きだが、はさみやのり付けなどの細かい作業は苦手である。 ・工作や料理が好きで、時々家の手伝いをする。 ・自分の気持ちを相手にうまく伝えられずに、消極的になってしまうことがある。

3 支援の目標

○身近な事柄や自分の気持ちを伝える活動を通して、語彙を増やし、言葉の理解力と表現力を高める。
相手の話を聞く活動を積み重ね、正確に聞き取る力を高める。
周囲の人と言葉でやりとりする経験を積み重ね、コミュニケーションに対する意欲や自信を高める。

学校の指導・支援	家庭の支援
<ul style="list-style-type: none"> ・本児が伝えたい内容を丁寧に聞き取り、正しい表現方法を伝える。 ・本児が自分から意欲的に発言した時には、即時評価して自信につなげる。 ・学習場面では動画や写真などの視覚教材を用いて、視覚的なイメージと言葉を結び付けられるようにする。 ・「指示ゲーム」や「音韻クイズ」などを通して、指示を正しく聞き取り、楽しみながら言葉を覚えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本児が誤った表現を用いて話しているときは、さりげなく正しい言葉を伝えるようにしている。 ・タブレット端末を活用した、言葉の理解に関する学習に、意欲的に取り組んでいるので、今後も継続していきたい。 ・家庭で休日に出かけたり、工作や調理を一緒に行ったりしながら、体験と言葉を結び付けて確認するようにしている。

自立活動の「流れ図」

【言語障害通級指導学級】

学校・学年	小学校・2年
障害の種類・程度や状態等	言語障害。話す、聞く等の言語発達の遅れ。自分の言いたいことをうまく表現できず、自信がない。
事例の概要	意味を理解して使える言葉を増やし、自分の気持ちや考えを周りに伝えられるようになることで、自信をもって物事に取り組めるようにする指導事例

障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について 情報収集
<ul style="list-style-type: none"> ・生き物が好きで友達と協力して、虫取りをしたりお世話をしたりすることができる。 ・自分の気持ちや要求を適切に相手に伝えることができず、諦めてしまうことがある。 ・知っている言葉が乏しく、担任の一言指示を理解することが難しいため、個別に丁寧に伝える必要がある。 ・国語に苦手意識があり、自信がない。算数の文章問題にもつまずきが見受けられる。 ・工作や料理などが得意で、意欲的に取り組む。

- 1 収集した情報()を自立活動の区分に即して整理する段階					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
/	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の言いたいことがうまく表現できずに自信がない。 ・生き物が好きでよくお世話をする。 ・国語全般や算数の文章題に苦手意識がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の活動におけるルールを理解することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任の一言指示を理解することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工作や料理などが得意で、意欲的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言いたいことがあっても言葉がまとまらず諦めてしまう。 ・経験したことや、様々な事物を関連付けながら言語化することが難しい。

- 2 収集した情報()を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階
<ul style="list-style-type: none"> ・学習や生活の中で意味を理解している言葉が限られており、指示を理解して行動することが難しい。 ・自分の言いたいことが相手に伝わりにくかったり、相手の言うことが理解しにくかったりすることから、他者とのかわりが消極的になりがちである。

- 3 収集した情報()を5年後の姿の観点から整理する段階
<ul style="list-style-type: none"> ・自信をもって自分の気持ちや考えを他者に伝えることができる。 ・コミュニケーションに対する意欲を高め、他者と積極的に関わることができる。

を基に - 1、 - 2、 - 3で整理した情報から課題を抽出する段階
<ul style="list-style-type: none"> ・意味を理解して使いこなせる言葉が限られている。 ・言葉と言葉を関連付けて覚えたり、順序よく相手に話したりすることが難しい。 ・言語による他者とのやりとりに自信がもてず、積極的にコミュニケーションを図ることが難しい。

で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な事物を関連付けながら言語化する活動を通じて、語彙の習得や上位概念、属性、関連語等の言語概念の形成を促す。 ・相手の話を正確に聞き取り、理解する力を高める。 ・相手に伝わったという成功体験を積み重ねることで自信を高め、周囲と円滑にコミュニケーションを図ることができる力を高める。

課題同士の関係を整理する中で今指導すべき目標として	に基づき設定した指導目標を記す段階
	○身近な事柄や自分の気持ちを伝える活動を通して語彙を増やし、言葉の理解力と表現力を高める。 相手の話を聞く活動を積み重ね、正確に聞き取る力を高める。 周囲の人と言葉でやりとりする経験を積み重ね、コミュニケーションに対する意欲や自信を高める。

指導目標を達成するために必要な項目の選定	を達成するために必要な項目を選定する段階					
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
		(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。	(1)他者とのかわりの基礎に関すること (2)他者の意図や感情の理解に関すること。 (3)事故の理解と行動の調整に関すること。 (4)集団への参加の基礎に関すること。	(2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。 (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。		(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること。 (2)言語の受容と表出に関すること。 (3)言語の形成と活用に関すること。 (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。 (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること。

項目と項目を関連付ける際のポイント
<p><身近な事柄や自分の気持ちを伝える活動を通して語彙を増やし、言葉の理解力と表現力を高める> ために、人(1)(2)環(5)コ(3)を関連付けて設定した具体的な指導内容が アである。</p> <p><相手の話を聞く活動を積み重ね、正確に聞き取る力を高める> ために、人(1)(2)(3)(4)環(2)(5)コ(3)を関連付けて設定した具体的な指導内容が イである。</p> <p><周囲の人と言葉でやりとりする経験を積み重ね、コミュニケーションに対する意欲や自信を高める> ために、心(3)人(2)(3)(4)環(2)コ(1)(2)(4)(5)を関連付けて設定した具体的な指導内容が ウである。</p>

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	具体的な指導内容を設定する段階		
	ア ・季節や行事、国語の内容に関連する言葉などについて、写真や動画などの視覚教材を手掛かりに言葉の理解を深める。 ・言葉の仲間集め、オリジナル言葉辞典作りなどを行い、語彙を増やす。	イ ・指示に従って体を動かすゲームや3ヒントクイズなど、楽しみながら相手の話を聞いて理解する力を高める。	ウ ・本児が得意な活動や、学校行事など自分が経験したことを順序よく伝える力を高める。

個別指導計画

【言語障害通級指導学級】

氏名		在籍	〇〇小学校 2年〇組（担任：〇〇 〇〇）
児童・生徒の障害の状態等	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物が好きで友達と協力して、虫取りをしたりお世話をしたりすることができる。 ・自分の気持ちや要求を適切に相手に伝えることができず、諦めてしまうことがある。 ・担任の一斉指示を理解することが難しいため、個別に丁寧に伝える必要がある。 ・国語に苦手意識があり、自信がない。算数の文章問題にもつまずきが見受けられる。 ・工作や調理学習などが得意で、意欲的に取り組む。 		
長期目標（年間）	<p>○身近な事柄や自分の気持ちを伝える活動を通して語彙を増やし、言葉の理解力と表現力を高める。</p> <p>相手の話を聞く活動を積み重ね、正確に聞き取る力を高める。</p> <p>周囲の人と言葉でやりとりする経験を積み重ね、コミュニケーションに対する意欲や自信を高める。</p>		

	短期目標	計画(指導内容)	評価
前期	(1) 身近な事柄について語彙を増やし、言葉への関心を高める。 (2) 簡単な口頭指示を聞き取って理解する。 (3) 好きな活動を通して言葉でのやりとりを楽しみ、発話意欲を高める。	(1) 季節や行事に関する言葉や国語の単元に出てくる単語について、写真や動画などの視覚教材を用いて示し、視覚的なイメージと言葉を結び付けて理解する。 (2) 指示ゲーム(指示に従って体を動かしたり、宝探しをしたりする活動)を通して聞いて理解する力を高める。 (3) 工作など本児が得意な活動において、言葉を通してやりとりすることが楽しいと思える経験を他者と共有する。	(1) 視覚教材を見て、自分から名称を尋ねたりするなど、身近な事柄に関する言葉への関心が高まってきた。言葉を想起するまでに時間がかかるときは、頭文字をヒントに出すと、思い出せるようになった。 (2) 指示ゲームでは、徐々に長い内容の指示にしながら、文章を聞き取る練習をした。ゲーム性をもたせたことで、意欲的に取り組むことができた。指示の内容が長くなると、必要な情報を聞き逃すことがあったため、文の長さを調整しながら今後も継続して取り組む。 (3) 本児が得意としている活動において、言葉で通じ合う経験を積み重ねたことにより、安心した様子で表現することが増えた。家庭と連携し、同じ活動を行ったことは、使い方が分かる言葉を増やしたり、表現の定着を図ったりする上で効果的であった。
後期	(1) 身近な事柄について、言葉と言葉とを関連付けて考えたり話したりする活動を通して、言葉の理解を深める。 (2) 簡単な口頭指示を聞き取って推測する。 (3) 身近な事柄や体験したことに関するやりとりを通して、言葉で表現する力を高める。	(1) 言葉の仲間集め、オリジナル言葉辞典作りなどを行い、語彙を増やす。 (2) 3ヒントクイズなどを通して聞いて考える力を高める。 (3) 休日の話や学校行事など経験したことを思い出し、適切な言葉や表現方法を確認する。	(1) 生き物図鑑を作る活動では、住んでいる場所や好きな食べ物などを調べてまとめた。好きな事柄を取り扱ったことにより、読んだり書いたりすることに抵抗感をもつことなく、楽しみながら言葉を覚えていくことができた。 (2) 3ヒントクイズでは始めはヒントカードを見て当てはまるものを選んだ。3つのヒントを記憶することが徐々にできるようになった。3学期にはカード無しでも、ヒントをもとに答えを推測することができるようになってきた。 (3) 毎回一つのテーマで話す活動をした。「いつ」「どこで」などの質問カードを手掛かりに、相手が分かるように伝えることが意識できるようになった。担当が聞き取って書いたメモを基に、最後に、自分で文章を組み立てて話すことができるようになってきた。